

各学科・専攻学修状況の報告（6）遠隔教育（沖縄及び教員免許状更新講習など含む）の学修状況

○久世 「遠隔教育における学修状況」について、説明を差し上げたいと思います。

お手元に「教員の資質能力向上に関わる先導的取り組み支援事業」の冊子をお渡しいたしました。（平成 26 年）3 月にこの報告書をつくらせていただきましたので、お手元にお渡しさせていただきました。これも含めて、学び続ける教員への支援というものを、これからどうしていくのかと

いうことを中心にお話をさせていただきたいと思います。

一つはお手元の資料にもございますように、教育委員会との連携による教員の実践的資質能力向上システムの構築です。これは平成 25 年におこなっていききました。主なフィールドは沖縄の教育委員会との連携というかたちでおこなってきました。これについての詳細は、ここでは省かせて

いただきますが、いわゆる短大から大学院までの体系化した養成カリキュラムをつくっていこうというかたちのことです。これは平成 21 年に、沖縄女子短大との連携、姉妹校提携を結び、それ以降、短大から大学院までの体系化したカリキュラムをつくり、何回も繰り返して改善を図ってまいりましたので、これをひとつ体系化したかたちの冊子にまとめていこうということです。

学び続ける教員への3つの支援

1. 教育委員会との連携による教員の実践的資質能力向上システムの構築（文部科学省委託事業）
2. 教育課題に対応するための教員養成カリキュラムの開発（文部科学省委託事業）
3. 免許更新講習と大学院公開講座の連携（予定）

<遠隔スライド1 教員への支援>

本事業の目的

短期大学から大学院まで体系化した現職教員の養成カリキュラムの開発と教材資料の流通・提供

<遠隔スライド2 事業の目的>

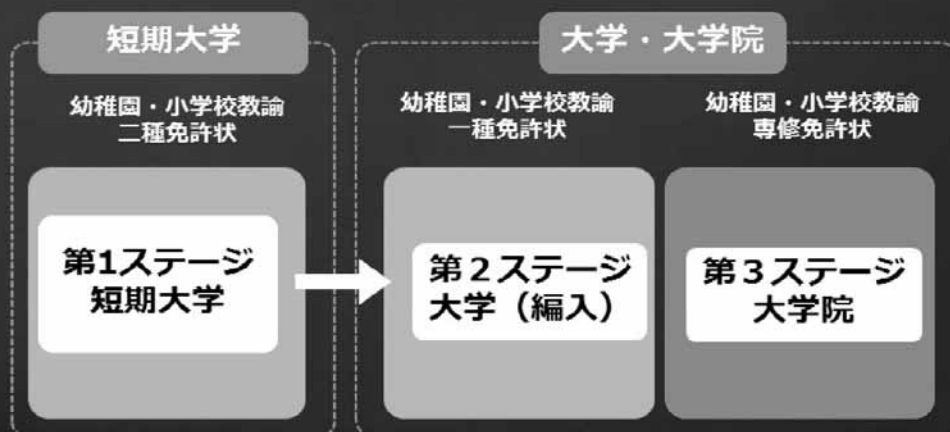
今後の教員養成における取組の必要性



<遠隔スライド3 アンケート結果>

1. 現職の教員を続けながら大学院の第3ステージまでの実践的で体系的なカリキュラム

特色を活かした現職の教員を続けながら大学院の第3ステージまでの実践的で体系的なカリキュラム(教材、教科書等)を構成し、共同演習・共同授業を行い、単位を互換し、さらに、大学の質的保証と各大学の教育力を高める評価システムの構築を図る。



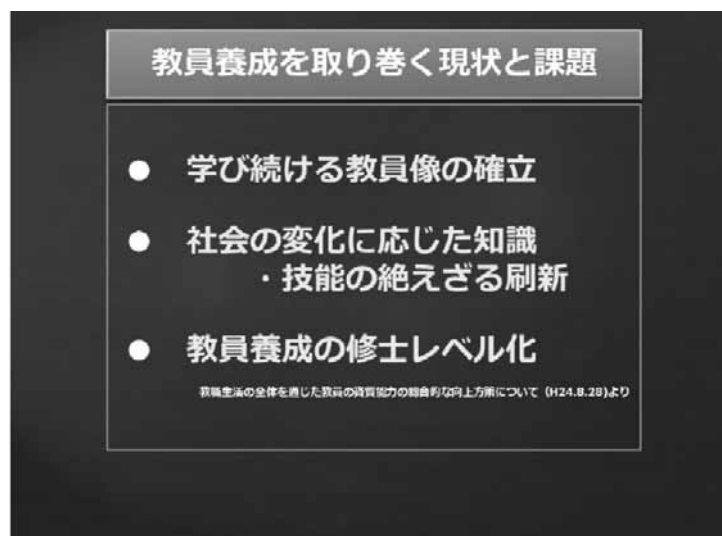
<遠隔スライド4 体系的カリキュラム>

このなかで、いくつかのアンケートを取らせていただいたわけです。そのなかで、特に今後の教員養成における取り組みの必要性というところで、卒業生への継続した学修の機会が非常に必要だというアンケートの結果が出ております(スライド3)。卒業してしまえば、それで終わりということではなくて、卒業生に対しても学修の機会を提供していくことが大事だろうということを考えております。そのために、いくつかの公開講座を設定させていただいて、卒業生に対しての支援をしていきたいと考えております。

沖縄の学生または大学院生は、通常は仕事をしている。いわゆる月曜日から金曜日までは、学校等に勤めている学生が多いです。土日になって、岐阜女子大学・大学院で学ぶ。働きながら学び続けるという教員がおりますので、そのような教員に対してどのようなかたちで、大学として支援をしていくかということを考えるのが、今年度の委託事業の内容です。

一つは、学校で勤務をした実績を単位として認めていくということを考えて、それについての実践と評価ということを、現在、おこなっております。これについては、おこなっている最中ですので、また次年度に報告書というかたちでお示しできればと考えております。この詳細については、この評価資料の後ろのほうにリーフレットを配布させていただきましたので、これを見ていただければと思います。

さらに、平成 27 年度には、免許状更新講習と大学院の公開講座を連携するということを考えております。これは、一つは学び続ける教師をどのように支援するかということでもあるわけです。または教員養成の修士レベル化も含めたかたちで、本学として現職教員にどのようなかたち、または



教員養成を取り巻く現状と課題

- 学び続ける教員像の確立
- 社会の変化に応じた知識・技能の絶えざる刷新
- 教員養成の修士レベル化

現職生涯の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (H24.8.28)より

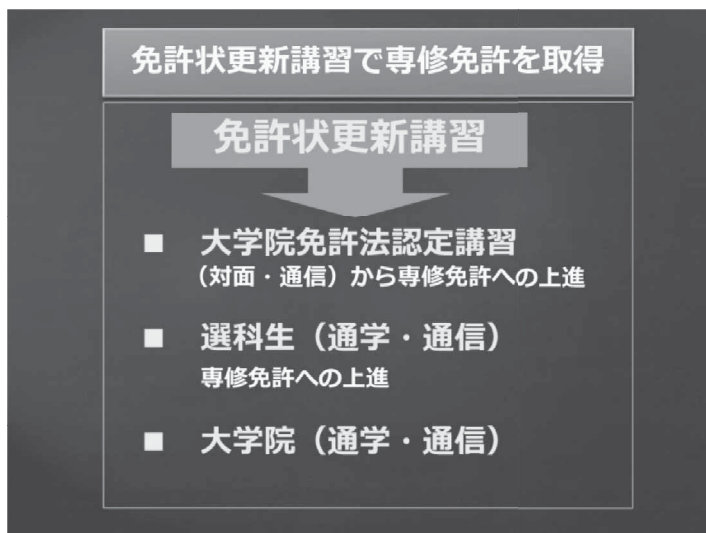
<遠隔スライド5 教員養成現状と課題>

卒業生の教員だった学生にどのようなかたちで支援できるかということを考えようとしております。

これは、教員免許状更新を終われば、あと 10 年教員をやれるということではなくて、免許状更新講習 30 時間おこなっていった結果、例えば、

それを専修免許等の上進の単位として認めていくことによって、次の上進への一つのインセンティブにつながっていくだろうというようなものです。いわゆる学び続ける教師を支援するためには、免許状更新講習を一つのきっかけとして、それを大学院、または上進ということにどのようにつなげていくのか。これが来年度考えていきたい内容ということになります。以上です。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。それでは、続きまして「就職・進学状況の報告」をキャリア支援センター長の時田よりご報告申し上げます。



＜遠隔スライド 6 免許状更新講習と専修免許＞